

遠3特
2378
275

腰越状

義經都より下向して相及腰越まで着たるを况
頼朝の御書にありて録倉入正と云ふは義経の御書に
と大江山へ移る是を腰越状と云ふ慶の由所と云

源義経ハ幼名と牛若丸と云人皇五十六代清和帝第六の皇子貞
純親王の嫡子六孫王経基よりの七代左馬頭義朝の九男なる由を
九郎冠者と号し御曹子より河鞍馬山の東光坊に登りて学文を受
薩摩を勧るといへる敢て聴き常小亡父義朝復讐の志を懐き母
夜僧正が谷中兵法を習盡く秘傳を傳其捷を多しと云ふ
少く潜山を出奥州秀衡が館に至志と告て為偶と治承四年只
頼朝剽賊を討つるを以て来て謁し是より將命せられて上京義仲
追討し既して平氏を攻平家悉く亡びて威を九州振て東国に
梶原謙言を録倉入と終つて空々京に歸る頼朝討つて堀川の館



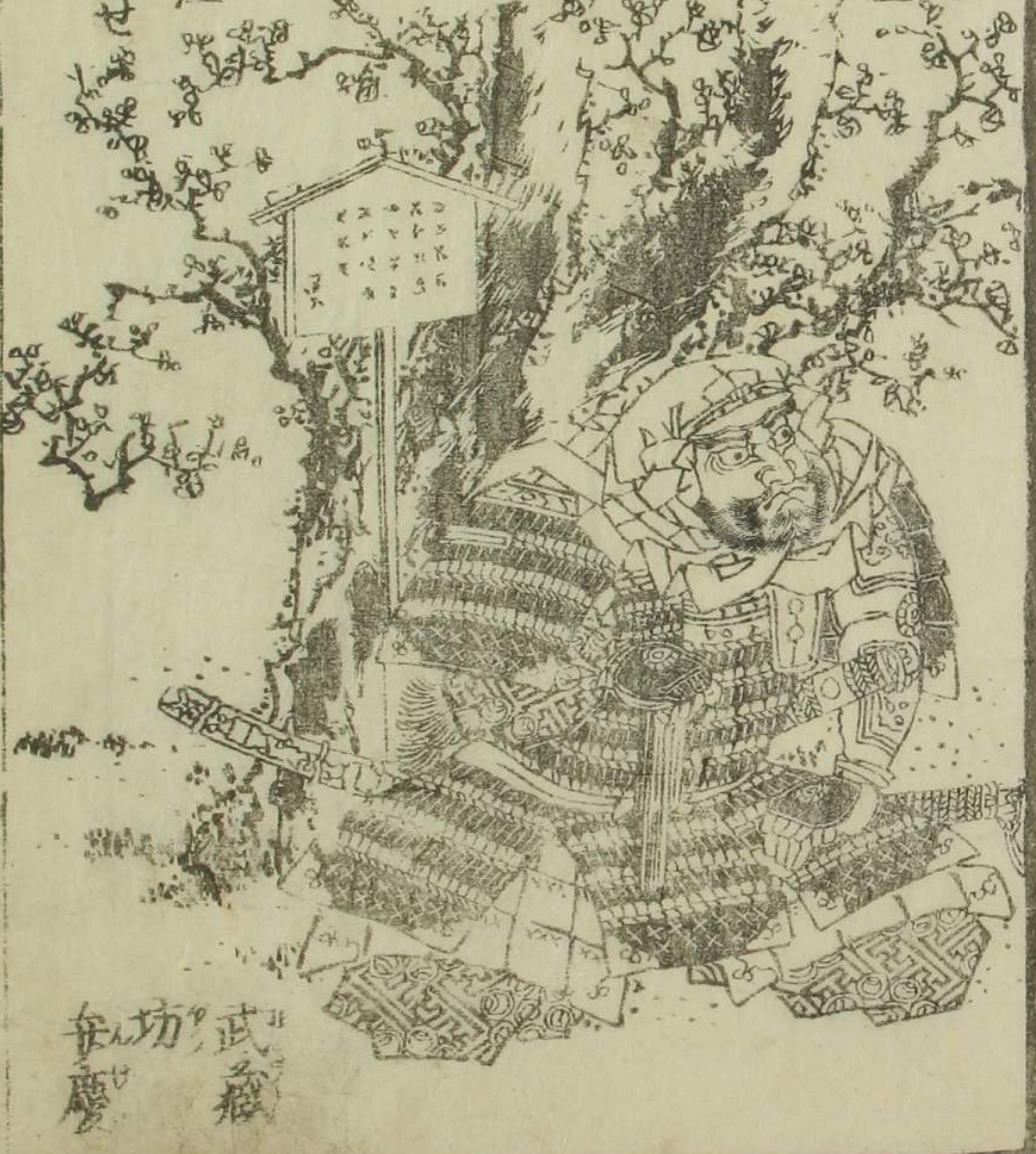
金澤五犬一

浦の迅風を免れ吉野の匿
 貌と変て再奥及秀衡が
 館小至ス 文治元年伊豫
 守小任ト同五年
 国四月廿日奥及
 衣川の館小於て泰柳
 ケ為小没落の時歳
 三十叶悲なる義
 經の武威向ふ所
 破竹の勢ひと導
 二年の回ふして
 天下の妖を乳を



源九郎判官経義

掃清ハ父の大誓
 世の功臣忠孝の
 良將なりと然れ
 とも梶原ケ詭
 口小係テ兄弟
 難を構て終小
 棟奥小ト小千裁
 の下炊婦塵儂
 中切齒瞑目て
 梶原を悪義經
 の寃を洗んと欲せ
 ぶはめめあむと



武藏 在坊 慶

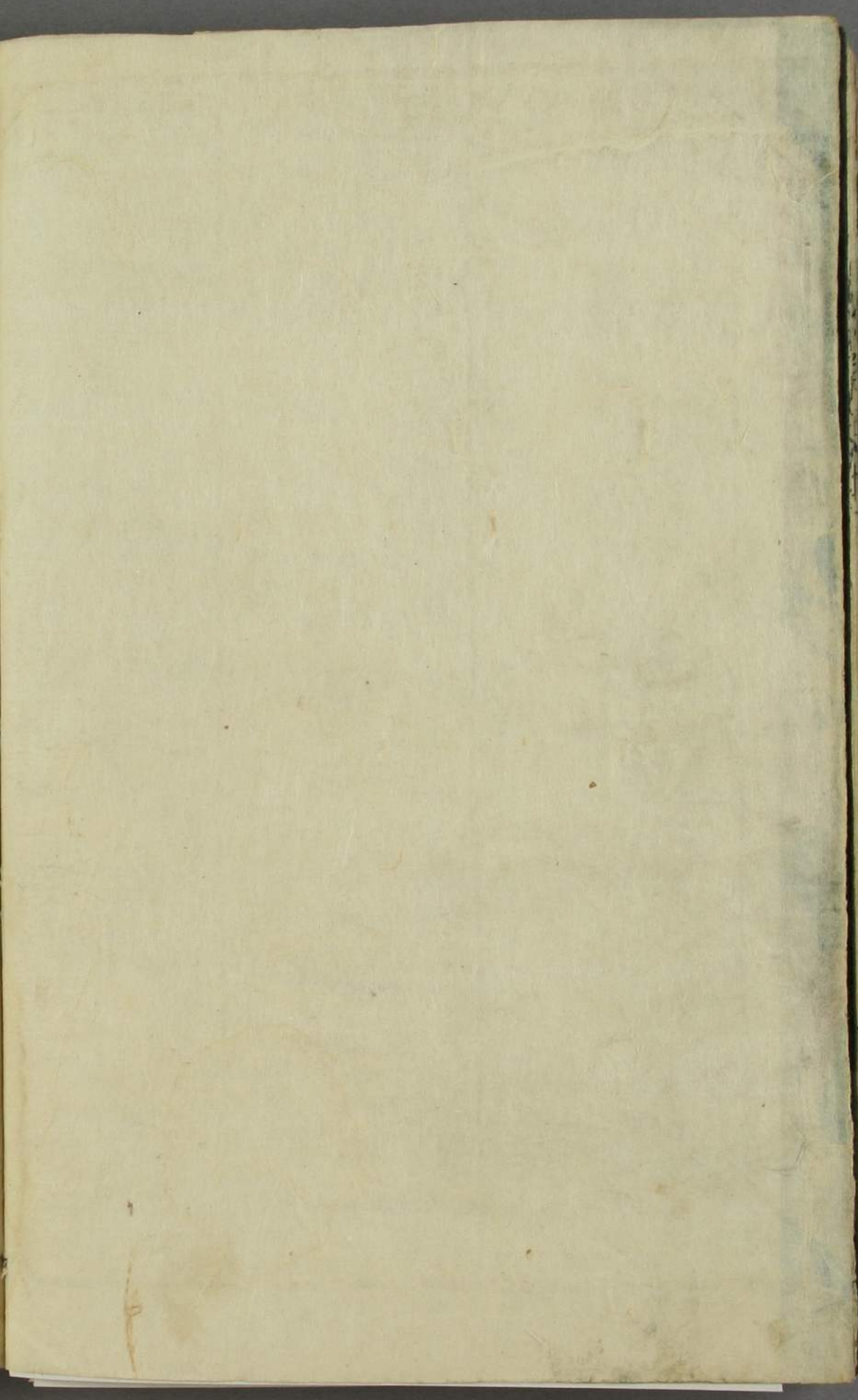


一筆斎作
黄泉画

泉市板

下冊

補正せしむるに...
 同日...
 何事...
 野...
 神...
 我...



書後
 其の併
 省録合
 早法事
 聖徳と作
 謹云
 文治元年六月五日
 世宗元曆元年と云ふる本
 われどありあり



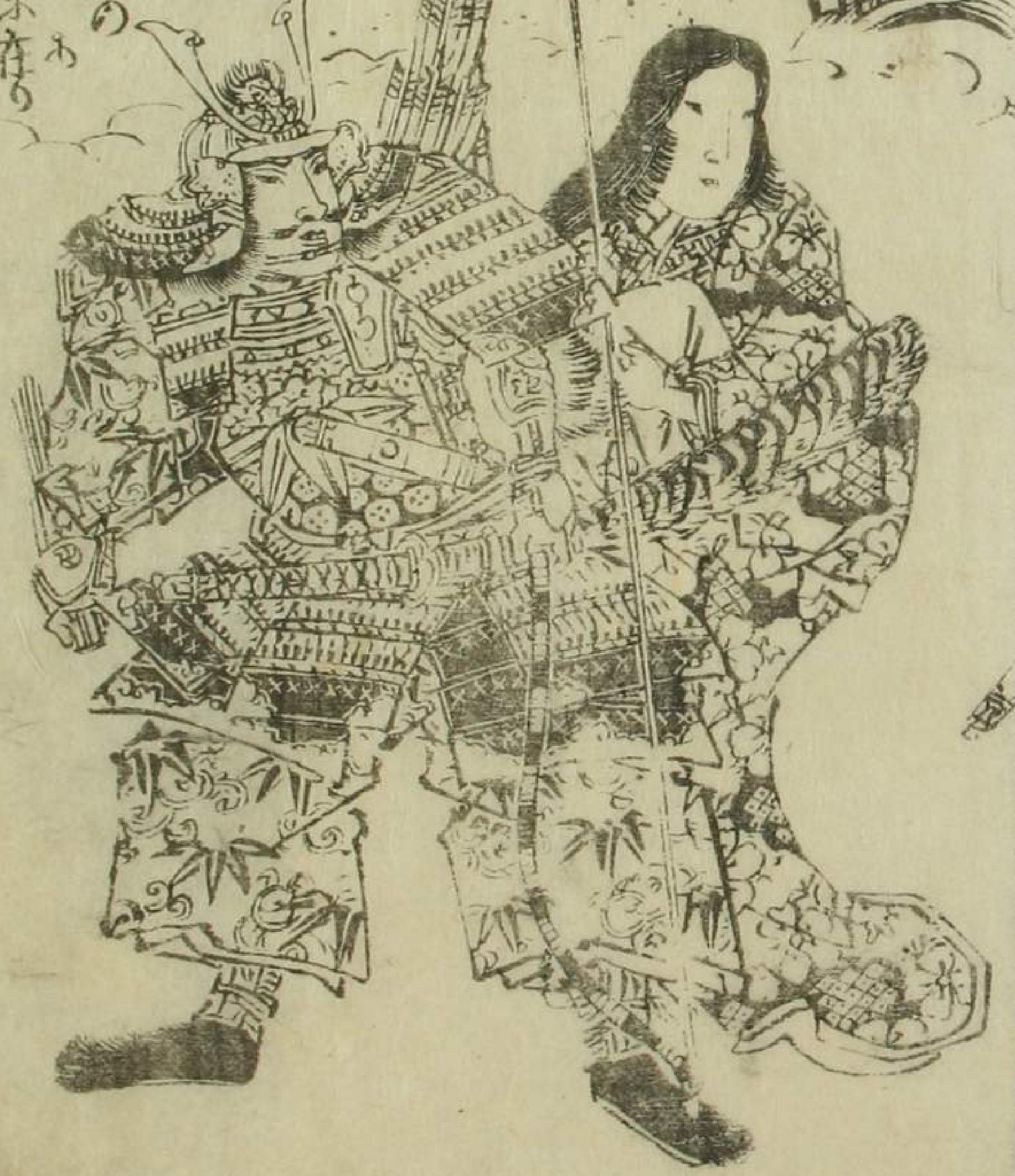
源義隆
 進上
 周備守殿
 丙戌の六月
 八十二
 業のいつ



一説白義
經文治五
年閏四月
廿日奥
高橋の城
あつて妻子
と刺殺し其
身影武者
を以て自害を
示し潛り伊磨
と俱して蝦夷地
へ遁去と云今社
有義經大明神



と号して夷人
信をとりつる
其況と審ふせ
相傳て曰相
藤沢白旗明神
の祠より源義
經の
靈をもちつる
判官
義經の頭を當
所不達
頼朝実檢し
を此祀し
首を埋る所の
塚も其傍に在
亦頼朝をも白
旗明神と祀
るより未その
是非を



○此高館落城の
画
を多小入
を爰ふ
せり

義経合狀



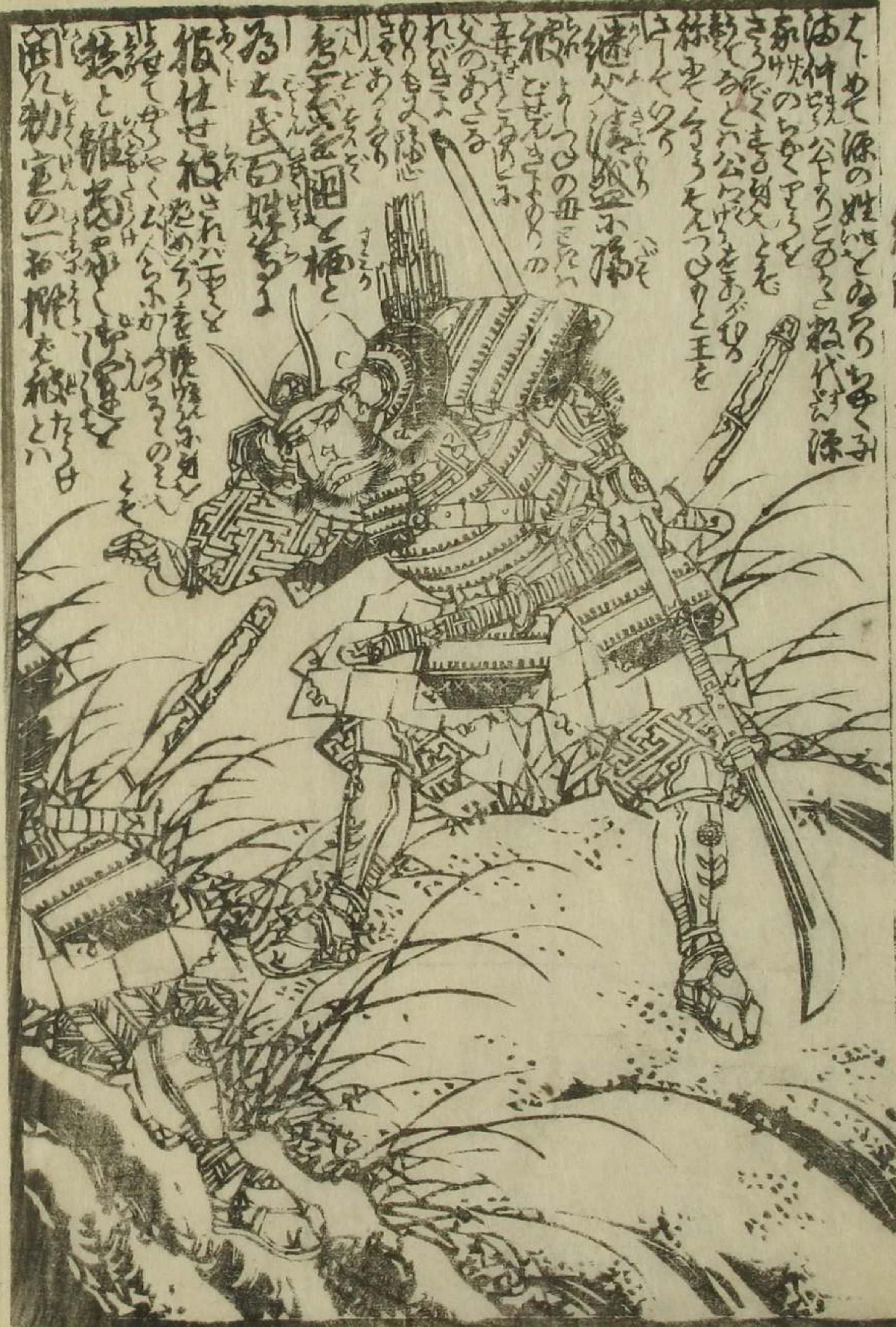
いけい
 目まきの文おれが
 河津の命うらね
 てあつせそんば長つ
 兄およりおふうごんて
 ませおれをふひりおふ
 陳謝はまると久とま



あふふふよりせり文徳院二年
 のころあふふふのいひはるは
 下つれ一たひいでひらまひ
 まひて君のさふおつれけの
 ろくふとひひひふふふふふ
 と下つてふふふふふふふ
 時ふひひひひひひひひひひ
 中をひひひひひひひひひひ
 そわはてふふふふふふふふ
 そふひひひひひひひひひひ
 そのふひひひひひひひひひひ
 状をふひひひひひひひひひひ
 惟ふふふふふ

あふふふふふふ

たつて源の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは



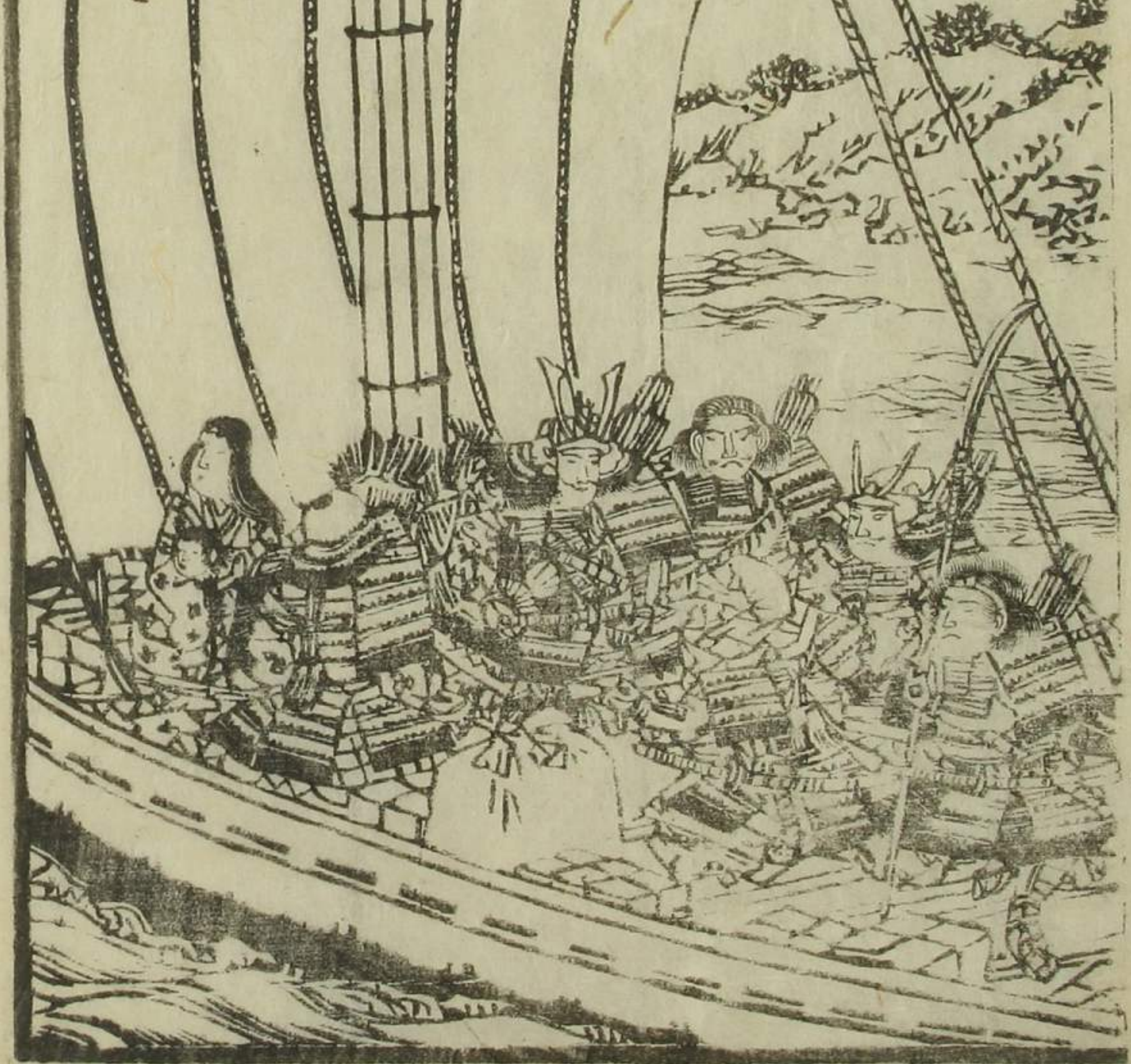
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは



徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは
徳川氏の姓にあらざるは

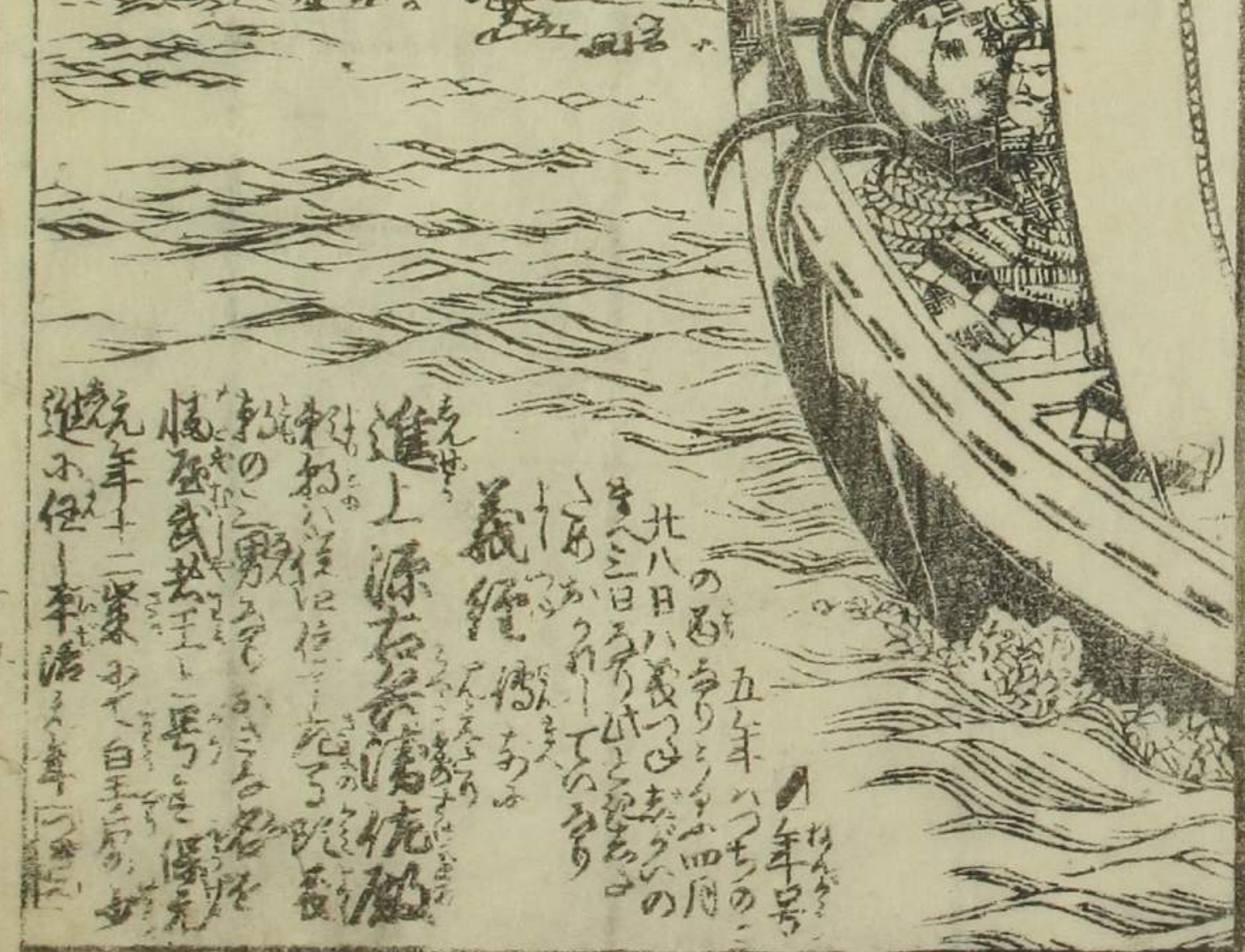
夫を以て... 徳川幕府の... 徳川幕府の... 徳川幕府の...

徳川幕府の... 徳川幕府の... 徳川幕府の... 徳川幕府の...



徳川幕府の... 徳川幕府の... 徳川幕府の...

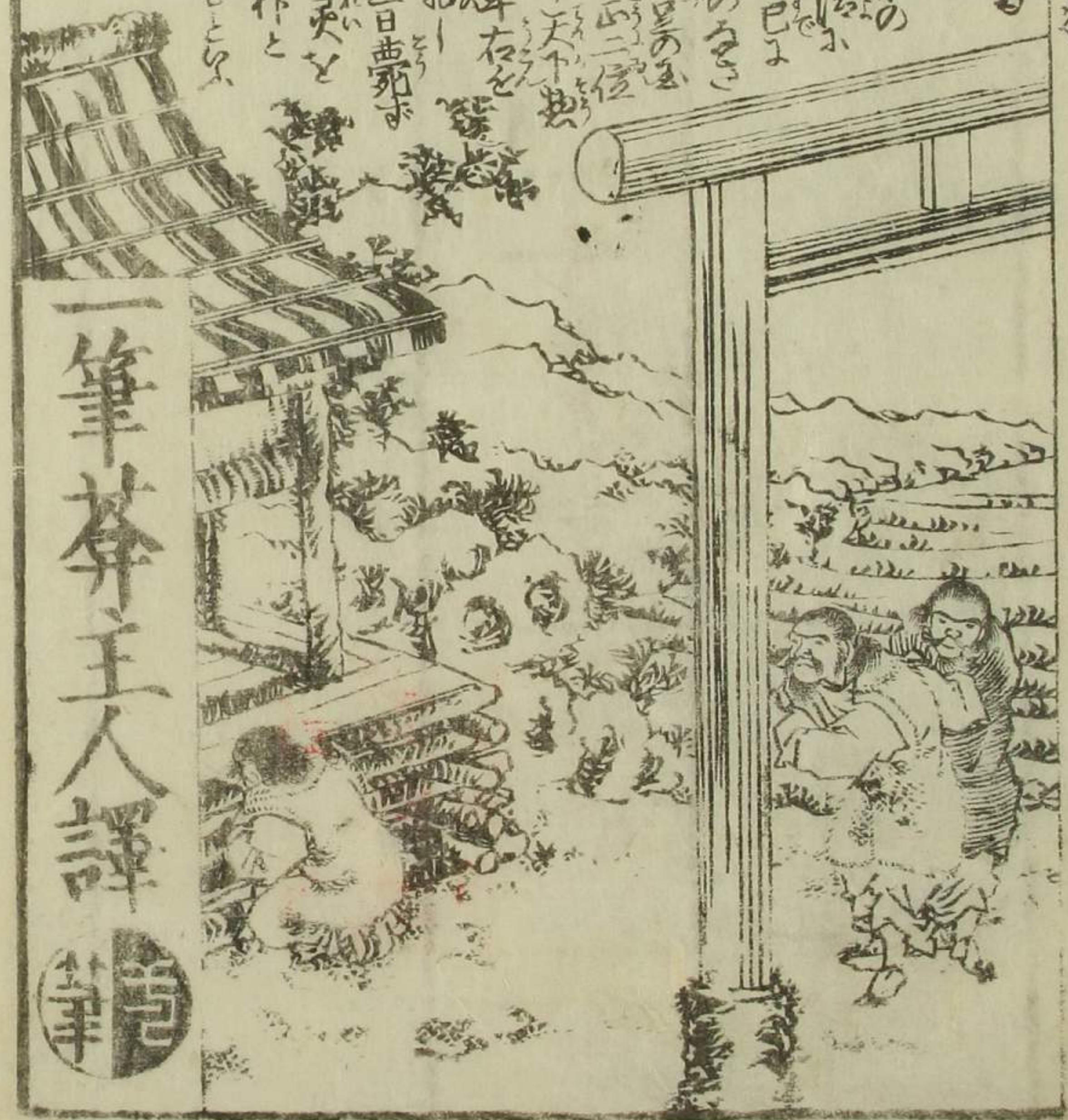
徳川幕府の... 徳川幕府の... 徳川幕府の... 徳川幕府の...



徳川幕府の... 徳川幕府の... 徳川幕府の... 徳川幕府の...

右多清持使不似まはる
 父とともみやことあわく
 法乃以あをばらめて平家の
 さつひの法平ひやう忠宗法小
 のけさつてみやくのなり已よ
 言せらるるを此の縁光のなき
 けちちて永曆元年修豆の玉
 ひるが小たまるるこれのち二二位
 大僧をふらう文治元年天十
 退捕後とりの建仁二年右を
 大將征夷大將軍とねり
 文治元年かの申四月十日自盡す
 歳五十一之治世二十年 冥と
 後念ふまゝりて白蓮の社と
 号せしといふ

溪齋
 英泉画



一筆茶主人譚



豆州樓
 清心



